

令和3年度 授業実施計画書

学 年	1 年	組	科目担当者
教 科 名	地 歴		
科 目 名	日本史B		
単 位 数	2		
必修選択区分	必履修		
使用教科書	詳説日本史 改訂版（山川出版社）		
使用副教材	新詳日本史（浜島書店）		
	新詳述日本史史料集（実教出版）		

学習の目標	1 学期	原始から近世、幕末から明治初期までの日本史の展開を、ヨーロッパやアメリカの動きと関連づけながら、アジアとの関係を重視し、幅広い見方で大きく考察させる。
	2 学期	日清戦争から第二次世界大戦までの日本の歩みを、アジアをはじめとする諸外国との関係を重視しながら、史料・図版を活用することで歴史の見方・考え方を身につけさせ、歴史的思考力を育成する。
	3 学期	戦後の日本の歩みを世界的視野に立ち大きく考察させることで、民主的・平和的な社会を形成する自覚と国際社会に主体的に対応できる資質を養う。
担当者からのコメント		歴史の大きな流れを理解させ、歴史的かつ論理的思考力を養うことをねらいとする。

成績評価	観 点	原始・古代～現代に至るまでの日本が、どのような歴史の過程を辿ったかを、国内外の情勢を分析しながら理解することができたか。
	方 法	平常の授業に取り組む姿勢、定期考査の結果、課題やレポートなどの提出物の状況を総合的に判断する。 授業に取り組む姿勢は、授業態度、ノート提出、発表の状況などを評価の対象とする。

授業計画	学 期		時 間	指 導 内 容	備 考
	1 学 期	中 間	12	日本史全体の概要 近代国家の成立	近代国家の成立
期 末		12	近代国家の成立		
2 学 期	中 間	14	近代国家の成立 二つの世界大戦とアジア	二つの世界大戦とアジア	日清戦争から第二次世界大戦までの流れを理解させる。
	期 末	14	二つの世界大戦とアジア		
3 学 期	学 年 末	18	占領下の日本 高度成長の時代 激変する世界と日本		現代史を世界的視野に立ち理解させる。

令和3年度 授業実施計画書

学 年	1 年	組	科目担当者
教 科 名	地 歴		
科 目 名	地理B		
単 位 数	2		
必修選択区分	学校必履修		
使用教科書	新編詳解地理B改訂版（二宮書店）		
	新詳高等地図（帝国書院）		
使用副教材	新編地理資料（とうほう）		

学習の目標	1 学期	読図や地域調査などの地理的技能を身につけるとともに、現代世界の地理的事象について自然環境との関連について考察する。
	2 学期	資源や産業を中心にして地理的事象の特色と空間的な広がりを理解し、地域の環境条件や他地域との結びつきを理解する。
	3 学期	さまざまな規模の地域に関して、歴史的な背景を踏まえた考察を行い、当該地域の地域的特色を理解する。
担当者からのコメント		基礎的事項の定着を重視する。その際、地名や用語の暗記ではなく成因や背景など事象のなりたちを理解するように心がけてほしい。 また、記述、論述の力を高めることを意識すること。

成績評価	観 点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の諸事象や諸課題に対する関心や授業に臨む姿勢 2. いろいろな見方や考え方を通して自分の考えをまとめ、文章として表現する力 3. 地図や諸資料から事象や現象を読み取り、考察する力 4. 世界の地域的特色や地理的事象についての基本的な知識
	方 法	年間5回の定期考査の結果をもとに、授業における姿勢や意欲、課題等への取り組み・成果などから総合的に判断する。

授業計画	学 期		時 間	指 導 内 容	備 考
	1 学 期	中 間	12	地理情報と地図 地域調査	地理的に考察するための基本事項を身につける
期 末		12	世界の自然環境 地形環境と人々の生活		
2 学 期	中 間	14	世界の自然環境 気候環境と人々の生活	自然環境と人間生活や産業の関連、成り立ちの背景を考察できるようにする	
	期 末	14	資源と産業		
3 学 期	学 年 末	18	村落・都市と生活文化 現代世界の諸地域	地理的事象にみられる歴史的背景との関連を考察できるようにする	

令和3年度 授業実施計画書

学 年	2 年	組	科目担当者
教 科 名	公 民		
科 目 名	現代社会		
単 位 数	2		
必修選択区分	必履修		
使用教科書	高等学校 改訂版 現代社会（第一学習社）		
使用副教材	最新図説現社（浜島書店）		

学習の目標	1 学期	現代社会の諸課題に対する関心をもち、習得した知識を活用できる。さまざまな意見や考えに触れ諸課題について考察できる。
	2 学期	現代社会の諸課題に関する理解をさらに深め、政治・経済の知識を習得する。その知識を活用し、解決を求められる諸課題について、論理的な思考ができるようになる。
	3 学期	政治・経済に関する基礎的な知識を習得し、多様な問題の全体像を客観的に把握することができる。自分と社会との繋がりについて理解を深め、より良い社会の構築について考察する。
担当者からのコメント	現代社会の諸課題については、学習内容が実際の社会と関連していることを意識した学習が求められる。日常から各種メディアに触れ、学習内容を活用して多くの問いを持ってほしい。	

成績評価	観点	現代社会の諸課題について関心をもち、多様な考えに触れ、主体的に考察できるか。現代社会の特質や、政治・経済に関する基本的な知識・理解を深めることができたかどうか。
	方法	定期考査の得点や授業態度などを総合的に判断して評価する。

授業計画	学期		時間	指導内容	備考
	1 学期	中間	12	現代社会の諸課題について理解を深め、多様な意見に触れて主体的に考察する。	現実の社会で起きていることと授業内容に関連させ、現実の社会との繋がりを意識させる。
期末		12	現代の民主政治と民主社会に関して、民主的政治体制のしくみや日本国憲法の基本原理や人権思想を中心に学習を進める。		
2 学期	中間	14	統治機構など民主国家の基本となるしくみについて理解を深め政治に関する基礎的な知識を習得させる。	図表や資料を活用して理解を深める一助とする。	
	期末	14	現代経済に関して、資本主義経済の原理や市場のしくみなど基礎的事項を理解させ、実社会の諸事象について考察させる。		
3 学期	学 年 末	18	財政・金融など経済に関する理解を深めさせ、習得した知識を活用して実体経済との関連について考察できるようにする。先哲の思想に触れ、自らの生き方と関連させつつ学びを深める	政治など既習分野の学習内容も活用して、学習を進める。	

令和3年度 授業実施計画書

学 年	2 年	組	科目担当者
教 科 名	地 歴		
科 目 名	世界史B		
単 位 数	2		
必修選択区分	必履修		
使用教科書	詳説世界史 改訂版（山川出版社）		
使用副教材			

学習の目標	1 学期	諸地域世界の特質について概観し、それらがヨーロッパ諸国の進出によって一体化していった過程を理解する。 また、近世ヨーロッパ社会の特質を理解させ、主権国家体制が成立したことの意義を考察する。
	2 学期	市民革命以降の欧米における近代社会の確立とその影響について考察する。 世界市場の形成を背景としたヨーロッパ諸国のアジア・アフリカへの進出とアジア諸国の対応を理解する。
	3 学期	世界と日本の動向から20世紀における世界の一体化を認識し、国際関係の変容を考察する。 現代の国際問題の原因や背景を歴史的にとらえ、国際協調の在り方について考察する。
担当者からのコメント	必履修科目であるため、基礎・基本をふまえた内容を取り上げる。 1年次で学んだ日本史や地理の内容と関連させ、発展させるとともに3年次に向けた動機付けを図る。	

成績評価	観点	諸地域世界の特質と近世以降の世界史の流れを的確に把握し、体系的な歴史認識をもてるようになったか。 単元ごとに、問題意識をもって歴史的な考察を行うことができたか。
	方法	定期考査の結果や提出物の状況から総合的に判断する。 日常の出席状況や課題プリントに対する取り組み、学習態度なども評価の対象とする。

授業計画	学期		時間	指導内容	備考
	1 学期	中間	12	12	諸地域世界の特質 大航海時代・ルネサンス・宗教改革
期末		近世ヨーロッパ世界の形成と展開（絶対王政、主権国家体制）			
2 学期	中間	14	14	産業革命と市民革命 欧米における近代国民国家の発展	日本近代史と関連
	期末			ヨーロッパ列強の進出とアジア諸国の対応	
3 学期	学年末	18	18	20世紀の世界 グローバル時代の世界史の課題と国際協調	日本と世界との関わり を重視

令和3年度 授業実施計画書

学 年	3 年	組	科目担当者
教 科 名	地 歴		
科 目 名	地理B（共通地理）		
単 位 数	2		
必修選択区分	自由選択		
使用教科書	新編詳解地理B改訂版（二宮書店）・新詳高等地図（帝国書院）		
使用副教材	新編地理資料（とうほう）		
	データブックオブザワールド（二宮書店）		
	ウィニングコンパス地理の整理と演習（とうほう）		

学習の目標	1 学期	系統地理分野のまとめをおこない、基礎的事項の知識を習得して、大学入学共通テストに対応できる思考力・考察力を身につける。
	2 学期	地誌的分野のまとめをおこない、基礎的事項の知識を習得して、大学入学共通テストに対応できる思考力、考察力を身につける。
	3 学期	問題演習を中心にして具体的な入試問題に対応できる力をつける。
担当者からのコメント	基礎的事項の定着とともに、さまざまな地理的事象の成因や背景などなりたちを理解することを心がけるとともに、必ず地図帳を手元に広げて学習してほしい。	

成績評価	観点	世界の地理的事象や地域的特色についての基本的な知識を有するか。 関心・意欲をもって学習に臨んでいるか。 地図や諸資料を参考にして事象を読み取り、考察する力を有するか。
	方法	4回の定期考査や、授業に取り組む姿勢や意欲、態度などから総合的に判断する。

授業計画	学期		時間	指導内容	備考
	1 学期	中間	12	地図と地理的技能 自然環境	地理的事象のなりたちや背景を既習事項との関連で考えられるようにする。
期末		12	資源と産業 人口と村落都市・生活文化		
2 学期	中間	14	アジア・アフリカ・ヨーロッパ	地誌的に見た地域の特色を既習の事項と関連付けて考えられるようにする。	
	期末	14	アメリカ・オセアニア 総合問題演習		
3 学期	学年末	18	総合問題演習	総合的な問題の演習を通して復習をはかる。	

令和3年度 授業実施計画書

学 年	3 年	組	科目担当者
教 科 名	地 歴		
科 目 名	地理B（文系地理）		
単 位 数	4		
必修選択区分	自由選択		
使用教科書	新編詳解地理B改訂版（二宮書店）・新詳高等地図（帝国書院）		
使用副教材	新編地理資料（とうほう）		
	データブックオブザワールド（二宮書店）		
	ウィニングコンパス地理の整理と演習（とうほう）		

学習の目標	1 学期	系統地理分野のまとめをおこない、基礎的事項の知識を習得して、大学入学共通テストや国立二次試験に対応できる思考力、考察力を身につける。
	2 学期	地誌的分野のまとめをおこない、基礎的事項の知識を習得して、大学入学共通テストや国立二次試験に対応できる思考力、考察力を身につける。
	3 学期	問題演習を中心にして具体的な入試問題に対応できる力をつける。
担当者からのコメント	基礎的事項の定着とともに、さまざまな地理的事象の成因や背景などなりたちを理解することを心がけるとともに、必ず地図帳を手元に広げて学習してほしい。	

成績評価	観点	世界の地理的事象や地域的特色についての基本的な知識を有するか。 関心・意欲をもって学習に臨んでいるか。 地図や諸資料を参考にして事象を読み取り、考察する力を有するか。 さまざまな見方や考え方を通して自分の考えをまとめ、文章として表現できるか。
	方法	4回の定期考査や、授業に取り組む姿勢や意欲、態度などから総合的に判断する。

授業計画	学期		時間	指導内容	備考
	1 学期	中間	24	地図と地理的技能 自然環境	地理的事象のなりたちや背景を既習事項との関連で考えられるようにする。
期末		24	資源と産業 人口と村落都市・生活文化		
2 学期	中間	28	アジア・アフリカ・ヨーロッパ	地誌的に見た地域の特色を既習の事項と関連付けて考えられるようにする。	
	期末	28	アメリカ・オセアニア 総合問題演習		
3 学期	学年末	36	総合問題演習	総合的な問題の演習を通して復習をはかる。	

令和3年度 授業実施計画書

学 年	3 年	組	科目担当者
教 科 名	地 歴		
科 目 名	世界史B		
単 位 数	4		
必修選択区分	自由選択		
使用教科書	詳説世界史 改訂版（山川出版社）		
使用副教材			

学習の目標	1 学期	古代・中世の学習を通じて、各地域世界の形成の過程を理解させ、それぞれの特徴について考察する。 また、地域世界間の交流の様相を理解させ、世界の動きを巨視的に捉える視点を養う。
	2 学期	中世・近世の学習を通じて、各地域世界の特徴が深化していく様子を理解し、 2年次に学習した大航海時代以降の世界の一体化の理解へとつなげていく。
	3 学期	1・2学期の学習の成果をふまえ、大学入学共通テスト・国公立2次試験・難関私大入試に 対応できる力を養う。
担当者からのコメント		進学指導重点校として、大学受験に対応できる力を養うことを重視するが、それは歴史の 理解に基づく歴史の本来的な学習によって達成されることを体得させる。

成績評価	観点	地域世界の形成過程や地域世界間の交流の様相について理解できているか、また主体的に 学習に取り組み、各地域世界の特徴やその現代的意義について考察できているか。
	方法	定期考査の結果や授業の参加姿勢、小テストなどを総合的に判断して実施する。

授業計画	学期		時間	指導内容	備考
	1 学期	中間	24	24	古代オリエント世界・ヨーロッパの古典 古代インド・東南アジア世界
期末		24	中国の古代・中世（宋・元まで）		
2 学期	中間	28	28	イスラーム世界の形成・発展 ヨーロッパ中世	単元ごとにまとめと演習を行う。
	期末	28		近世のアジア 問題演習	
3 学期	学年末	36	36	古代から近現代の復習 問題演習 論述添削指導	総復習と大学受験直前の確認をする。

令和3年度 授業実施計画書

学 年	3 年	組	科目担当者
教 科 名	地 歴		
科 目 名	世界史B（世界史演習）		
単 位 数	2		
必修選択区分	自由選択		
使用教科書	詳説世界史 改訂版（山川出版社）		
使用副教材			

学習の目標	1 学期	20世紀前後以降の世界について、講義を通じて理解する。 合わせて、基本的な問題演習を通じて知識の定着を図る。
	2 学期	主に、過去の大学入試問題の演習を通じて既習内容の定着状況を確認する。 また、基本的な内容が身についた範囲については、より高度な知識の体得をめざす。
	3 学期	1・2学期の学習の成果をふまえ、大学入学共通テスト・国公立2次試験・難関私大入試に対応できる力を養う。
担当者からのコメント	進学指導重点校として、大学受験に対応できる力を養うことを重視するが、それが歴史のオーソドックスな学習によって達成されることを体得させる。	

成績評価	観点	授業を軸としつつ、主体的に学習に取り組んでいるか。 特定の地域や国に着目して通史的な理解や、ある世紀・年代に着目した同時代的な理解など、既習事項についてテーマに応じて再構成することができているか。
	方法	定期考査の成績を中心に、授業に取り組む姿勢などを考慮して、総合的に判断する。

授業計画	学期		時間	指導内容	備考
	1 学期	中間	12	近代後期から現代史の講義 問題演習	あわせて前近代の東南アジア史・内陸アジア史などを扱う。
期末		12	問題演習と補足 先史、古代オリエント、古代地中海世界（ギリシア、ローマ）、南アジアの古典文明		
2 学期	中間	14	問題演習と補足 古代～中世の東アジア史 イスラーム世界、ヨーロッパ中世	必要に応じてテーマ史も扱う。	
	期末	14	問題演習と補足（総合問題など） 論述式問題の指導、その他		
3 学期	学年末	18	大学入学共通テスト前 大学入学共通テスト後 共通テスト対策 論述問題指導 私大・国公立2次対策	共通テスト後は個別指導中心	

令和3年度 授業実施計画書

学 年	3 年	組	科目担当者
教 科 名	地 歴		
科 目 名	日本史B		
単 位 数	4		
必修選択区分	自由選択		
使用教科書	詳説日本史 改訂版（山川出版社）		
使用副教材	新詳日本史（浜島書店）		
	新詳述日本史史料集（実教出版）		

学習の目標	1 学期	原始・古代から学習を進め、歴史学習を暗記から考察・類推・理解に基づくものであることを身につける。
	2 学期	1年次に学習した近現代史の復習を通して、現代社会の成り立ちを考え、民主的・平和的な社会を形成する自覚と国際社会に主体的に対応できる資質を養う。
	3 学期	1・2学期の学習の成果をふまえ、共通テスト・国公立2次試験・難関私大入試に対応できる力を養う。
担当者からのコメント	進学指導重点校として、大学受験に対応できる力を養うことを重視するが、世界史的な視点・歴史的な思考力・表現力も重視し、将来の有為のリーダーとしての資質向上も図っていく。	

成績評価	観点	史・資料を踏まえて、近世国家の社会や文化の特色を実証的に考察し理解できたか、近現代国家の形成と社会や文化の特色について国際環境と関連付けて理解できたかを、「興味・関心」「思考・判断」「史料活用の技術」「知識・理解」に基づき評価する。
	方法	定期考査の結果のほかに、授業の参加姿勢などを総合的に判断して実施する。

授業計画	学期		時間	指導内容	備考
	1 学期	中間	24	原始から白鳳期	時代の転換期における特色を理解させる。
期末		24	奈良時代から鎌倉幕府の成立		
2 学期	中間	28	建武の新政～戦国時代までと近現代史復習	近代国家の成り立ちを特に国際情勢との関連で理解させる。	
	期末	28	近現代史の復習		
3 学期	学年末	36	近世・近現代復習 問題演習	総復習と大学受験直前の確認	

令和2年度 授業実施計画書

学 年	3 年	組	科目担当者
教 科 名	地 歴		
科 目 名	日本史B（日本史演習）		
単 位 数	2		
必修選択区分	自由選択		
使用教科書	詳説日本史 改訂版（山川出版社）		
使用副教材			

学習の目標	1 学期	近世の政治・社会経済・対外関係・文化に関する事項整理をもとに近世の特色について学習し、各分野間の関連について考察し、歴史的思考力を身に付ける。
	2 学期	第二次世界大戦後の通史学習を通し、民主的・平和的な社会を形成する自覚と国際社会に主体的に対応できる資質を養う。
	3 学期	1・2学期の学習の成果をふまえ、大学入学共通テスト・国公立2次試験・難関私大入試に対応できる力を養う。
担当者からのコメント	分野間の関連の整理や資史料の適切な解釈などの歴史的思考力を養うことを通し、論述問題を含めた大学入試への対応力を高める。	

成績評価	観 点	史・資料を踏まえて、近世国家の社会や文化の特色を実証的に考察し理解できたか、近現代国家の形成と社会や文化の特色について国際環境と関連付けて理解できたかを、「興味・関心」「思考・判断」「史料活用の技術」「知識・理解」に基づき評価する。
	方 法	定期考査のほか、小テストや授業の参加姿勢などを総合的に判断して評価する。

授業計画	学期		時間	指導内容	備考
	1 学期	中 間	12	近世史の概説	必要に応じて復習テストを実施する。
期 末		12	近世史の概説		
2 学期	中 間	14	戦後改革と経済復興・経済の高度成長	必要に応じて演習問題を扱う。	
	期 末	14	高度成長の終焉・現代の諸課題・近現代文化史		
3 学期	学 年 末	18	問題演習（テーマ史）	総復習と大学受験直前の確認。共通テスト後は個別指導で対応する。	

令和3年度 授業実施計画書

学 年	3 年	組	科目担当者
教 科 名	公 民		
科 目 名	倫 理		
単 位 数	2		
必修選択区分	自由選択		
使用教科書	高等学校 新倫理 新訂版（清水書院）		
使用副教材	テオリーア 最新倫理資料集 新版三訂（第一学習社）		
	完全MASTER 倫理問題集 ◇大学入学共通テスト◇最新版（清水書院）		

学習の目標	1 学期	源流思想の意義を確認しつつ、自己のあり方・生き方への思索を深める。 西洋近代思想と民主社会の倫理に関して体系的に学ぶ。
	2 学期	社会的課題や自らの生き方と関連づけながら、現代思想について考察する。 日本思想の学習を通して国際社会に生きる自分について理解を深める。 先哲の思想を踏まえて、現代社会の諸課題について考察する。
	3 学期	主に大学入試共通テストの「倫理」「倫理・政経」に対応できる学力を完成させる。
担当者からのコメント	先哲の思想に触れて哲学することで自らの世界が広がる楽しさを感じながら、結果として大学入試に対応できる学力を身につけてほしい。	

成績評価	観点	高校「倫理」に関する基礎的な知識を習得し、活用できるか。 先哲の思想に関して、その中心となる箇所を正しく理解できているか。
	方法	定期考査の得点や授業態度などを総合的に判断して評価する。

授業計画	学期		時間	指導内容	備考
	1 学期	中間	12	現代に生きる自己の課題、源流思想	自己のあり方・生き方とも関連づけた「倫理」の学び方を確認させる。
期末		12	源流思想、西洋近代思想		
2 学期	中間	14	現代思想、日本の伝統思想	思想の展開、発展が世界の歴史の中でどのような重みを持つかを感じさせる。	
	期末	14	日本の東洋思想・西洋思想の受容、近現代の日本思想 現代社会の諸課題		
3 学期	学 年 末	18	大学入学試験や旧センター試験過去問題の演習 小論文などの個人指導	大学入試に向けた総復習を行う。	

令和3年度 授業実施計画書

学 年	3 年	組	科目担当者
教 科 名	公 民		
科 目 名	政治・経済		
単 位 数	2		
必修選択区分	自由選択		
使用教科書	高校 政治・経済 新訂版（実教出版）		
使用副教材	最新政治・経済資料集 新版 2021（第一学習社）		
	2022年入試 ベストセレクション大学入学共通テスト 政治・経済重要問題集（実教出版）		

学習の目標	1 学期	2年次の「現代社会」における政治学習を基盤に、特に人権思想と民主的な政治体制を中心として知識を習得し、活用できる。
	2 学期	2年次の「現代社会」における経済学習を基盤に、経済のしくみに関する知識を習得し、活用できる。
	3 学期	政治・経済に関する諸課題を概観し、それぞれの課題・論点についての認識を深め、大学入学試験にも対応できる力を養う。
担当者からのコメント	政治経済を学ぶことで、現代社会の諸事象を自ら考察できるようになる。大学入試に必要な学力を身につけるとともに、習得した知識を活用して様々な事象について思索してほしい。	

成績評価	観点	政治・経済に関する基礎的な知識を習得しているか。 現代社会で起こる諸事象について、獲得した知識を活用して論理的に考察できるか。
	方法	定期考査の得点や授業態度などを総合的に判断して評価する。

授業計画	学期		時間	指導内容	備考
	1 学期	中間	12	民主政治の基本原則、日本国憲法	実際の政治・経済の状況や諸課題と関連づける。
期末		12	日本の統治機構、現代日本の政治、現代の国際政治		
2 学期	中間	14	資本主義経済の基本原則、現代経済と福祉の向上	経済理論と現代社会で起こる諸事象との関係に留意する。	
	期末	14	国際経済と日本、現代社会の諸課題		
3 学期	学 年 末	18	大学入学試験や旧センター試験過去問題の演習 小論文などの個人指導	大学入試に向けた総復習を行う。	